

「聴き上手」になるために。ラウンドテーブルのすすめ！

今年度も、平成31年2月9日(土)10日(日)の二日間にわたって「平成30年度宇大教育実践フォーラム」を開催します。その中で、「ラウンドテーブル」を二日目に実施します。本フォーラムにおけるラウンドテーブルは、各学校の学校改革・授業改善の取組や、教職大学院生の実践研究の成果を持ち寄って少人数で話し合い、参加者一人一人が、率直な悩みや行き詰まりを語り合い、相談し合えるような場にすることを目指しています。

昨年度は、発表者59人、聴き手41人の計100人が参加し、そのうち、小・中・義務教育学校、県立学校、他大学から、計48人が参加してくださいました。年を追うごとに、ラウンドテーブルが質・量共に充実してきました。

私個人としては、グループ協議の際に、どうしてもしゃべり過ぎてしまうので、「聴き上手」になることを目指し参加しています。しかし、その都度、後悔しています。一方、「話し上手」になりたくて参加されている方もいると思います。そこで、昨年度のラウンドテーブルに対するアンケートにお答えいただいた、主なご意見・ご感想を紹介します。

- 現職の先生との有意義な話し合いができました。学校の現場、学校全体という自分にはなかった目線ができました。
- 多様な先生の多様な考え、意見が聞けてよかったです。発表させていただき、意識も考えも深まりました。来年も参加します！
- とてもためになる実践を紹介していただけました。ぜひ、学校で取り組んでみたいと思いました。毎回、自分の頭の中を整理したり、気力の充電の機会にさせていただいています。来年は、若手にも声をかけてみたいと思っています。
- 話し合い、報告、時間配分が、丁度よかった。(昨年度より、とてもよかった。)参加して本当によかったと思うラウンドテーブルでした。
- メンバー、ファシリテーターに、とても恵まれました。特にファシリテーターの先生は、優しく話しやすかったです。
- 小グループに分かれていましたので、研究されてきたことをしっかり聞かせてもらいました。研究されてきたことを教えていただき、大変勉強になりました。
- いろいろな話が聞け、刺激となり、また明日からがんばろうと思いました。
- いろいろな先生方の実践とその課題を聞くことができ、自分が現場で行っている実践の見直しのできる良い機会になった。教師が何を意図しているのかということが、とても大切なのだと実感した。現場での授業研究会も、このような悩みを解消できる場であってほしいなと思ってしまう。
- 様々な見地から刺激的な意見をいただき、自分の実践を多面的に考察することができました。また、明日からの実践につなげていきたいと思っています。ありがとうございました。
- 自分の実践を語っていても、一方的に話してしまう場が多かったと思う。ファシリテーターの役割もさることながら全体で聴き合い、語る場があると、更に良くなるように思う。
- 様々な取組を聞くことができ、貴重な時間になりました。私自身が考えていることは、まだまだ視野がせまいんだと改めて感じ、再度、自分が教職員としてどう関わることかを考えさせられました。
- 少人数で話しやすい。かしまった研究会より、実用的なことが学べたと思います。
- すごく楽しかったです。有意義な時間で、あっという間に過ぎていってしまいました。こういう機会を求めています。来年(次回)も、また参加したいと思います。
- へき地教育の取組で、発想の転換をして実践することの大切さを学びました。また、校内地留学という取組で、教頭の資質向上を図ることにつながるなど、私の発表する機会も得られ、大変充実したものになりました。研究での裏話、大変なこと、これからも続けていく上で必要なことなど、ざっくばらんに話せたことがよかったです
- 発表会では、話したり聞いたりすることが活発にでき、とてもよかった。
- 自分の実践に対し、とても参考になる意見をいただきました。とても勉強になりました。
- 新たな知識を得ることができる場であり、討議形式でとても充実しました。
- みなさんの実践も聞いて、自分の悩みについても話すことができて良かった。
- 時間が、あっという間でした。やはり、話し合いはよいことだと思いました。
- 立場、年齢、視点の異なる先生方と、話をできたことが、とても勉強になりました。
- 栃木県内の先生方と話す内容に、年々深みが出てきているのを感じました。私たちの素晴らしい学びの場になっています。勤務校の若手に声をかけ、来年度より多く誘い出したいと思いました。



「学校における働き方改革に関する議論の動向」 教育実践高度化専攻准教授 小野瀬善行

学校における働き方改革に関する総合的な方策について、中央教育審議会の議論の中間まとめが昨年末(2017年12月)に出されました。「中間まとめ」では、学校が担うべき業務として、学習指導要領に基づいた学習指導、児童生徒の人格形成に不可欠な生徒指導・進路指導、保護者・地域等と連携した学級経営や学校運営業務が挙げられています。これに加え、その範囲が曖昧なまま慣習的に教師により行われてきた代表的な業務を、以下のように整理しています。

【基本的には学校以外(地方公共団体、教育委員会、保護者、ボランティア等)が担うべき業務】

①登下校に関する対応、②放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導された時の対応、③学校徴収金の徴収・管理、④地域ボランティアとの連絡調整

【学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務】

⑤調査・統計等への回答等、⑥児童生徒の休み時間における対応、⑦校内清掃、⑧部活動

【教師の業務だが、負担軽減が可能な業務】

⑨給食時の対応、⑩授業準備、⑪学習評価や成績処理、⑫学校行事等の準備・運営、⑬進路指導、⑭支援が必要な児童生徒・家庭への対応

今後は、このような整理を踏まえて各地域や市町村、学校ごとの実情について議論を深めていくことが重要になります。また「中間まとめ」の議論を踏まえた本答申も年度内にはまとめられる予定ですので、そちらに留意を払うことも必要です。

《シリーズ:院生の声 ⑦》

協働の力

教職大学院での学びも、残すところわずか。最終コーナーに差し掛かるかという段階に入りました。多くの実りを感じる中で、「協働することのよさ」について、非常に大きな可能性を感じています。

自分自身がもともと多面的・多角的なものを見方がすることが苦手だからかもしれません。院生同士が協働する中で、ほかの人の意見を聞き、考えに触れることで「なるほど。」と、自分の見方・考え方が少し広がり、深くなるのを感じます。さらに、少し変化した自分の考えを発信して、自分でも振り返りつつ、相手からもさらに意見をもらう。このような体験を繰り返すことで、人は考えを深めていけるのだと実感しました。こんな学びの体験を子どもたちにもしてもらうために、自分に何ができるか考えるとワクワクします。子どもたち一人一人が、自分のもてる力を生かしながら、協働し、考えを共有し合う中で、それぞれが学びを深め、成長していく…そんな学びの場をつくりたいです。

また、協働による学びは、私たち教員同士の間にも起こるものだと思います。この1年半、教職大学院に県内各地から集まった様々な校種の現職の先生や学部卒の院生達と、また実習でお世話になっている、下野市立薬師寺小学校の先生方との対話を通して、自分には無い視点やさらに質の高い視点から多くの学びを得ています。対話し、考えを伝え合うことで、院生同士、また実習校の先生方との同僚性も非常に高まっていると感じます。それぞれがもてる力を生かしながら、互いに知見を深め合うことで、より専門性の高い教職員集団へ高まっていく…院での学びを終えて、学校現場に戻った際にも、肩ひじ張らずに先生方と学びを深め合えるそんな関係を作っていきたいと思います。

このような充実した学びの機会を与えていただいていることに感謝をし、残りの院生生活も仲間と学びを深め合いながら過ごしていきたいです。

(2年 永嶋政宏)

人間性について

大学4年のとき教員採用試験に落ちました。そのときは、悔しさからか、「人間性ってそんなに簡単に測れるか?そんなに大切か?」と思っていました。その後、教職大学院に入学しました。教授も現職も学卒も魅力的な人たちばかりでした(1か月で集団に溶け込めたのは人生で初めてです)。

人間性の良い人たちが周りにあふれていると、人間関係も講義で出される課題もすべて上手くいきます。不思議なことに、私も「みんなの力になりたい」と心から思うようになりました。それだけ人間性というのは、定義はできないものだけれど、人を前向きにさせる働きがあります。

これは授業にも言えると思います。同じ内容でも、誰が教えてくれるかでその授業の面白さは変わります。尊敬できる先生、信頼関係のある先生は、生徒を引き付け、学ぶ意欲を高めてくれます。

気に入ったコーヒーカップで飲むコーヒーが少しおいしいのと同じかもしれません。少しの違いであっても、毎日のことだからカップは大切です。元気のない日、頭がもやもやする日でも気に入ったカップで飲むと少しやる気が出ます。

教職大学院での生活も残りわずかになりました。私も良きコーヒーカップになれるように頑張りたいと思います。



(2年 戸田智之)

《編集・発行》 宇都宮大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻 (教職大学院)

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350番地 Tel: 028-649-5242

<http://www.edu.utsunomiya-u.ac.jp/koudoka/index.html>

◇教職大学院Facebook: <https://www.facebook.com/uuptnet> ※院生が編集し、教員が管理しているFacebookです。

